

～支えあう 住みよい社会 地域から～

民児協だより



…まなざし… 災害を知って備えよう

こんにちは、大磯町の民児協です！

当民児協では、東北の震災をきっかけに防災委員会を立ち上げ、日頃からいざという時に備えた学習等に取り組んでいます。

今年度の全体研修は、防災体験学習施設の「そなエリア東京」にて体験・学習しました。コロナ禍ではできなかった借上げバスを利用したこともあり、普段ふれあう機会のない委員同士の繋がりを深め、学び

ながら楽しく相互の連携強化ができたと思います。

大磯町は山と海に囲まれた自然豊かで、とても素敵な町です。しかし、先日の大雨の際には浸水や土砂災害に見舞われた地域もあり、様々なリスクがあります。

当民児協も、日頃の活動を行う中で災害を意識し、今後さらに委員相互の連携を強化し、災害に備えてまいりたいと思います。

(大磯町民生委員児童委員協議会)



No.
159
2024.12
冬

神奈川県民児協設立50周年
記念キャラクター「みんぴょん」

特集

- ①もっと民生委員を知ってもらおう
 - ②3団体で地域の食を支える
みんなの食堂☆ラパニスの取り組み紹介
 - ③令和6年4月以降に施行された制度改正の動き
- 通信員だより(藤沢市・綾瀬市・中井町)

もっと 民生委員を知ってもらおう 特集

令和4年3月、全県児連は同年12月の一斉改選を前に、全国1万人を対象に一般の方から見た民生委員の印象や認知度に関する調査を実施しました。この調査は、民生委員に対するイメージの実態を把握し対策を打つことで、民生委員の担い手の発掘に生かすことを目的にしています。平成31年3月に続き2回目となった調査の結果、6割を超える方が民生委員の名称や存在を認知する一方、「役割や活動内容まで知っている」と回答したのはわずか5.4%にとどまり、民生委員の役割や活動内容に関するさらなるPRが必要ながことが明らかになりました。

現在、県内では5月12日の「民生委員・児童委員の日」に合わせたPR活動をはじめ、広報紙の発行や地域のイベントへの参加など、各地域において様々な取り組みが行なわれています。本号では、3つの民児協の取り組みについてご紹介します。

平塚市民児協



パネル展示(5月9日から5月17日まで)
場所:商業施設「ららぽーと湘南平塚」1F



取材にご協力いただいた
 市民児協広報部会長の
 中山さん



長年パネル展示自体は行われていましたが、場所は市役所の多目的ホールでした。しかし、広報部会や地区会長の「市役所に来る方以外にも見ていただきたい」という意見により、令和5年から展示場所を変更しました。オリジナリティ溢れるパネルは、平塚市内23地区それぞれで制作されています。

今年はみんぴよんのイラスト付きタンブラーを作成しました。パンフレットとともに街頭で配布したところ、開始からわずか40分ほどで500個全て配り終わりました。PRグッズと一緒にパンフレットをお渡しすると受け取ってもらいやすく、タンブラーは若い方にもお渡しできました。



PRグッズとともに街頭PR



広報紙「ひらつか民児協だより」発行

コロナ禍で広報部会員が集合できない時にはLINE WORKSを用いて編集会議を実施するといった工夫をしながら発行を続け、37号になりました。

紙面については地域の活動を知ってもらうため、昨年からは各地区の広報部会員に自分の地域の活動について投稿するように依頼しました。配布対象は社協や自治会などの関係機関をはじめ、各地域の民生委員が1人あたり約10枚をそれぞれの裁量で高齢者や子育て世代などに配布しています。

その他、FMラジオ放送にてラジオパーソナリティから民生委員の活動について紹介しました



(広報委員 守屋 孝幸)

大和市民児協

大和市民児協では、「大和市民まつり」に会場した方に、民生委員に関するアンケートを実施しました。



取材にご協力いただいた市民児協会長の村上さん(中央右)、下鶴間地区民児協副会長の渡邊さん(中央左)と事務局のみなさん

ウェットティッシュを配付しながら行いました



アンケート実施のきっかけ

一斉改選を重ねるたびに委員の欠員が増えており、これは大和市に限らず全国的な傾向です。その原因はどこにあるのかを探りたいという思いがありました。

また、令和4年に民生委員は意外と知られていないという話になり、ポスターを作成して掲出したものの、目に見える効果は得られず実態がわからなかったため、直接市民の声を聴きたいと考えました。

そんな中、令和5年に4年ぶりの「大和市民まつり」が開催されることとなりました。役員会の中でアンケートを取ってみようという声が挙がり、賛否両論あったものの、まずはやってみるということとなりました。

アンケート結果からわかったこと

- 民生委員を知っている方は多かったが、自分の地域の民生委員を知らない人が多い
→ 「民生委員」という言葉が一人歩きしている
- 主任児童委員は知らない人が8割以上
- 民生委員の存在を学校で教わったと回答する小学生もいた
- 年齢や性別に関係なく、53%の方がボランティアに興味がある



アンケート結果はこちら

アンケート結果を踏まえて

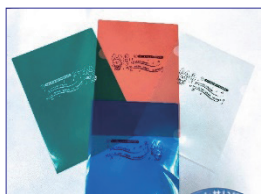
アンケート結果を役員会で各地区の会長と共有し、8月の役員会において、各地区で話し合ったことを報告してもらいました。また、今後は関係機関へのさらなる働きかけを行ったり、学校との連携を強化したりと、民生委員を周知したいと考えています。

(広報委員 齋藤 啓子、菅 重男、嶋村 真由美)

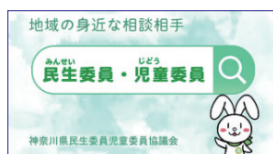
本会では、PRに活用できる様々なコンテンツや助成をご用意しています



パンフレット



グッズ



PR動画



県民児協が定める助成対象事業に当てはまる場合、一定の範囲内で助成します。詳しくは事務局までご相談ください。

活動推進事業助成

逗子市民児協

取材に伺った日は、逗子市内最大規模のイベントである「逗子市民まつり」に向けた準備のため、パンフレットなどの袋詰め作業が行われていました。逗子市民児協は、民生委員の活動が市民に知られていないのではという問題意識から、若い方に地域の自治会や民生委員に関心を持っていただけるような機会をつくるため、令和5年より逗子市民まつりへ参加し、PR活動を行なっています。



取材にご協力いただいた逗子市民児協のみなさん。協力して丁寧に袋に詰めていきます。

令和5年は折り紙の蝶々づくりのワークショップを実施しました。事前に用意したパーツを糸で結び、ボンドで貼って触角を付けて完成するもので、100名もの方にご参加いただきました。

ワークショップ実施後、民生委員に関する簡単な問題を用意し、参加者にはお土産をお渡ししました。

今年は社会福祉協議会にあるストラックアウトや輪投げを借りて子どもたちに遊んでもらい、その間に同伴の保護者へ民生委員についてのクイズを実施。回答してくださった方にパンフレットやPRグッズ、折り紙の蝶々が入った袋をお渡ししました。



ストラックアウト



逗子市民まつり 当日の様子



ストラックアウトなどの用具が目をつけたこともあり、たくさんの方がブースに訪れました。クイズに参加していただける方も多く、午前中のうちに用意したグッズ100個が全てなくなるほど大盛況でした。

(広報委員 宮崎 進)

全民児連「全国1万人への民生委員・児童委員に関する意識調査」の結果はこちらからご覧いただけます



平成31年



令和4年

また、大和市民児協会長の村上さんは「なり手不足解消の決定的な特効薬はない。これからもあらゆる機会を通じて地道な広報活動を続けていくことが大切」と語ります。民生委員について知っていただく機会をつくるとともに、今後もなり手確保に向けて継続した取り組みを行っていきましょう。

3つの民児協で共通して話題に挙がったのは、民生委員は大変だというイメージや、地域の名士であるという印象を変えたいということとです。平塚市民児協広報部会長の中山さんは「民生委員は大変という声があるからこそ、地域の楽しい様子を伝えていきたい」と言います。逗子市民児協会長の坂口さんは「定年を迎えても地域で活躍できる場があること、若い方には働きながらでも民生委員ができることを知ってもらいたい」と意気込みを話されました。

今後の活動に向けて

3団体で地域の食を支える みんなの食堂☆ラパニスの取り組み紹介



みんなの食堂☆ラパニス開店です!

令和4年6月、秦野市では初となる朝食を提供することも食堂として、大根地区に「みんなの食堂☆ラパニス」がオープンしました。ラパニスとは、古代ギリシャ語で「ダイコン(大根)」。かわいらしいイラストが目印のこの場所は、社会福祉法人かながわ共同会秦野精華園(以下、秦野精華園)、大根地区新しまちづくり運動推進委員会(以下、委員会)、みんなの食堂☆広畑(以下、広畑)の3団体が協力して運営しています。秦野精華園では、建物を使用し子ども食堂を開設できないかとプロジェクトを立ち上げ活動をしてきたこと、委員会会長がみんなの食堂として広畑以外にもう一つ作ろうと声を上げたこと、広畑で活動しているメンバー

様々な方が訪れる場所へ
中学校が近いことから、オープン当初は子ども孤食対策や早寝・早起きの習慣づけなどを目的に、毎週水曜日に朝食の提供を行



フードバンクや農家さんからいただいた食材からメニューを考えます。素材を活かした品数豊富な手作りプレートが好評です。

の中で広畑以外にも新たに立ち上げたいという思いがあったことなどがきっかけとなり、場所・資金・人材など、お互いに提供できる事を考えながら活動しています。料金は誰でも1000円で、食事を作るスタッフは60代から80代の10名。民生委員や主任児童委員をはじめ、立ち上げの際に回覧板で募集をかけて集まった、調理経験のある方なども関わっています。



家族連れであつという間に満員になった夕食会場

っていました。しかし、中学生は忙しいようでなかなか利用数が伸びず、先生方に声掛けもお願いしましたが、根付くまでには至りませんでした。そこで、毎月第3火曜日に夕食も開始し、子どもたちやご家族が参加しやすいようにしました。現在、朝食は大学生や夜勤明け・出勤前の社会人、高齢者など多くの方々に利用され、地域の居場所となっております。
運営の中心的役割を担っている大根地区主任児童委員の前田さんは「子育てサロンの時にチラシを配布したり、デイサービスなどで口コミが広がったりすることで、少しずつ輪が大きくなってきています」と笑顔で話してくれました。



メニュー 10/15火

- ハンバーグ
- 秋野菜のソテー
- ナッツ・かぼちゃのサラダ
- コーンスープ
- ハロウィンクッキー・マドレーヌ



「今は継続することで精いっぱい。いずれ学校の中で活動し、早寝・早起き・朝ごはんを実現できたら」と前田さん

見守りの役割も
以前は感染症対策のために参加者の電話番号を控えていましたが、現在は任意としています。過去には、連絡がつかなかったことから、関係機関や担当の民生委員と連携し安否確認につながったケースもあり、今では高齢者の皆さんに頼りにされているといえます。
* * * * *
食を通して地域の方々のお腹と心を満たすこの場所は、なくてはならない拠り所になっています。(広報委員 守屋 孝幸、小林 美幸)

解説

令和6年4月以降に施行された制度改正の内容

今年4月以降の福祉関連制度の主な内容をご紹介します。今後の民生委員・児童委員活動にぜひお役立てください。

困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(以下、女性支援新法)

これまで女性支援の根拠となっていた「売春防止法」は、「売春を行うおそれのある女子に対する補導処分・保護更生」を目的とし、保護施設への入所等の支援が行われていました。しかし、現在女性が抱える課題は貧困や性被害、家庭問題など、複雑化・多様化しており、孤立・孤独対策も含め、新たな女性支援強化が課題となりました。

令和6年4月より施行された「女性支援新法」は、女性の福祉増進、人権の尊重、男女平等といった視点を明確に規定しました。困難な問題を抱える女性が安心して自立した生活ができる社会の実現に寄与することを目的として、関係機関及び民間の団体の協働により、早期から切れ目なく支援することを目指しています。地域の身近な相談相手である民生委員には、女性相談支援センターや女性相談支援員への協力が求められています(第14条)。

子ども・若者育成支援推進法

令和6年6月の法改正により、ヤングケアラーが「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っている」と認められる子ども・若者」と法律上で初めて定義されました。



子ども家庭庁ホームページより

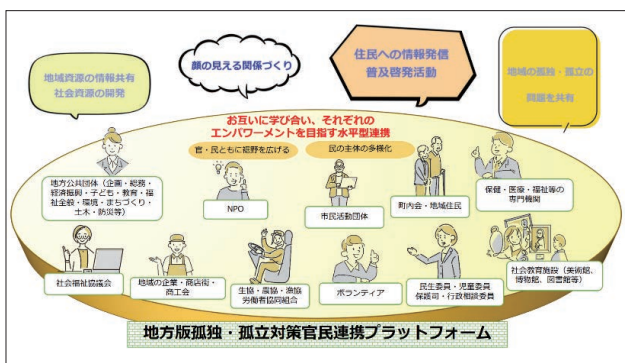
ヤングケアラーは家庭内の問題であることから家庭外からは見えにくく、また、子ども自身やその家族がヤングケアラーであるということを確認していない場合もあります。

ヤングケアラーの支援を進めていくためには、周囲の大人が理解を深め、家庭内で子どもが担っている家事や家族のケアの負担に気づき、必要な支援につなげることが重要です。

孤立・孤独対策推進法

孤独・孤立の予防、当事者等への迅速かつ適切な支援、その他必要な取り組みについて、その基本理念、国等の責務や施策の基本となる事項を定め、総合的な孤独・孤立対策に関する施策を推進することを目的に、令和6年4月に施行されました。

国においては、官・民・NPO等の様々な主体の連携を図るため「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を令和4年2月に設立しました。同プラットフォームの神奈川県版として「かながわつながりネットワーク」が設立され、民生委員も含め、県内の緩やかなつながり



第4回地域共生社会の在り方検討会議(内閣府孤独・孤立対策推進室)資料より

に向けた官民連携の取り組みを検討しています。

障害者差別解消法

障害がある人への不当な差別的取扱いを禁止し「合理的配慮」及び「環境の整備」を行うことで、障害のある人もない人も共に生きる社会を目指すため令和6年4月に改正され、民間事業者に対し合理的配慮の提供が義務付けられました。合理的配慮の提供とは、障害のある人から「社会の中にあるバリアを取り除いてほしい」との意思が伝えられた際、負担が重すぎない範囲で対応することです。社会的なバリアを取り除くために必要な対応として、事業者と障害のある人との間で対話を重ね、共に解決策を検討する「建設的対話」が重要とされています。



障害者差別解消法リーフレット

【参考】政府広報オンライン「事業者による障害のある人への「合理的配慮」の提供」が義務化



NEWS&インフォメーション



令和6年度 児童委員・主任児童委員連絡会議の報告

今年1月に主任児童委員制度が創設30周年を迎えたことを受け、対象を主任児童委員に絞った会議を9月25日に横浜市で開催しました。

前半の講義は、講師に聖隷クリストファー大学准教授の泉谷朋子さんをお招きし、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた子どもたちの現状や、今後の主任児童委員に求められる取り組みについてご講義をいただきました。

後半は8つのグループに分かれ、各地域で行われている活動や主任児童委員として活動している中でよかったこと・困っていること、関係機関との連携についてな



ど、それぞれ自由に意見交換を行いました。学校との連携が難しい中でも先生との関係づくりや学校行事への参加から学校に入っていくことが大切、何かしてあげたいという気持ちがある中でも見守りの距離感を大切に、関係機関へつなげたいなどといった意見が挙げられました。

泉谷さんは「地域の人として関わり続けることができるのが専門職との違い。子どもたちや親御さんと直接関わるのが難しくても、活動の中であがってきた情報を伝えていくことが大切」と語られました。

令和6年度 課題別集中講座の報告

9月27日、「認知症の人と家族を地域で支えるために」をテーマに、小田原市で課題別集中講座が開催されました。



「今の活動について迷うことなく継続していただきたい」と泉谷さん

講師に日本福祉大学副学長の小松理佐子さんをお招きし、認知症の方を取り巻く状況や、認知症の大切さなどについてご講義をいただきました。小松さんは「認知症の方がその人らしく暮らせるための支援には、行政や専門機関にはできないこともあ



「困った時に助けを求められる関係づくりが大切」と小松さん

る。普通の付き合いをするのが1番重要。それがその方への支援になっていく」と語られました。

その後、認知症の人と家族の会神奈川県支部の副代表である三橋良博さんから、ご自身の経験を踏まえたお話がありました。三橋さんは、認知症になったご両親と奥さんの介護について、仕事をしながら続けられてきました。町内会の懇親会でその場にいる方全員に向け、ご家族が認知症になったことを伝えたところ、民生委員を含む地域の方が気にかけてくださり、徘徊しているところを見かけた際の連絡や、三橋さんが仕事で不在の際

の話し相手など、様々な場面で協力していただけたいです。また、「介護をしている家族は一生懸命頑張っているため泣き言を言えず、孤立してしまう。そんな中で、あいさつや声かけがあると自分はひとりじゃないのだと思える」と、地域の方からついでに語られました。



「自分の話をまわりが受け止めてくれて、多くの方が気にかけてくれた」と三橋さん

全国へPR! (全民児連)



全国で発行されている新聞折り込みマガジン「ビズスタ(※)」で、「ビズスタ×民生委員」として特別版が全国で約39万部発行されました(11月26日)。藤沢市民児協の協力により、委員活動のやりがいや魅力、地域住民から民生委員へのメッセージなどが掲載されていますので、ぜひご一読ください。



※「ビズスタ」(ビズ ライフ スタイル オンライン) (株)デイリースポーツ案内広告社の、最新のビジネススタイルを配信するサービス

通信員だより



藤沢市

高齢者の長寿をお祝いして

通信員 今福 民生

藤沢市には地域内に16地区民児協がありますが、年々高齢者数が激増し、会場手配、交通手段などが困難になり、6地区において社協主催で「敬老会」を開催しています。開催した辻堂東・西地区の例をご紹介します。

地区民児協の各委員が地区社協に全面的に協力し、案内状の配布、参加者とりまとめ、来場者の往復の交通手段の確認を市民センター職員の方々と連携し運営しています。

当日は各町内から徒歩、ご家族の送迎、用意したバスなどにより10時に会場の市民センターに集まり、社協会長、市長の挨拶、記念品贈呈・マンドリンクラブの演奏、最後に地区サークルのリードで参加者および関係者全員で昔懐かしい歌、「ふるさと」「青い山脈」そして地元の歌「浜辺の歌」を歌い、とても和やかに会場がひとつになりました。



多くの方にご参加いただきました

昔はよく顔を合わせた近所の方と「敬老会」での久しぶりの再会、笑顔で手をとり合っている様子や、担当の民生委員と一緒に歌いながら近況を語りあう温かい雰囲気、敬老会となりました。「また来年来るからよろしく」との声をいただき終了となりました。

綾瀬市

学び、交流できる研修会

通信員 堀 誠

綾瀬市民児協では各委員の活動に有用なテーマを決め、各種研修会を年数回開催しています。研修会ではさまざまな分野の知識やスキルについて深く学ぶとともに、変化が著しいこの時代に合わせて新しい情報等を更新し、日々の民生委員・児童委員活動に活用しています。

特に全体で開催する研修会では、さまざまな分野の専門家等による講演を聴くことができ、普段接する機会がない他地区の委員の方との交流や情報・意見交換をすることもできるため、多くの委員が積極的に参加しています。

なかでも年1回開催される「事例発表会」は、各地区からの委員数名がひとつの会議室で車座対話をする形で開催されます。この発表会は、テーマを設けず各委員が日頃の活動についての話や感想、経験したこと等を自由に3分間程度話し、他の委員は発表者に対して質問や議論をすることをしないで発表者の話をしっかり聴くことに本質があります。自分の活動を話し、他の委員の活動の話を聞くことによる自己の活動スキルや意識向上の機会、情報交換できるきっかけづくりの場でもあります。毎回実りある研修ができたという感想が多く聞かれます。



中井町

私達は子育てサポーター

通信員 西尾 美嘉子

はじける笑顔！元気に響き渡る声！子ども達との交流を通して私達は元気をもらっています。

児童福祉部会の委員としての最初の活動は、未就園児と親の遊ぶ会「たけのこ会」へのイベント協力でした。事前にプログラムを考え、子どもたちが楽しく使ってもらえることを想像しながら、廃材を使いマラカスや自動車の制作に励みました。当日、初めはママの後ろで恥ずかしそうにしていた子どもも、帰る時には私達が制作したおもちゃを持ち、「ニコニコと満足気に帰っていききました。参加したママ達からも「リフレッシュできました」

「楽しかったです」とのお言葉があり、私達も自然と笑顔あふれる時間となりました。コロナ禍を乗り越え、児童福祉部会の活動も活性化しています。町内の園児・児童・生徒への卒園・卒業メッセージカード作りや絵本の読み聞かせ、登下校の見守り等を通じ、児童福祉部会の活動を知ってもらおう機会となっていないのではないのでしょうか。今後どんな時も温かく見守りながら、町の子育てサポーターとして活動を継続していきます。



絵本に興味津々です



廃材のおもちゃ

ホームページをご活用ください！

☆県民協ホームページでは、民生委員・児童委員制度や活動に関する参考資料などを掲載しています。委員専用ページをご覧いただくためには、次のログイン情報をご入力ください。

